

1 carnation
Dianthus caryophyllus L.

R18
COUTION!

おじさん
×
女装男子
COUTION!

女装
COUTION!

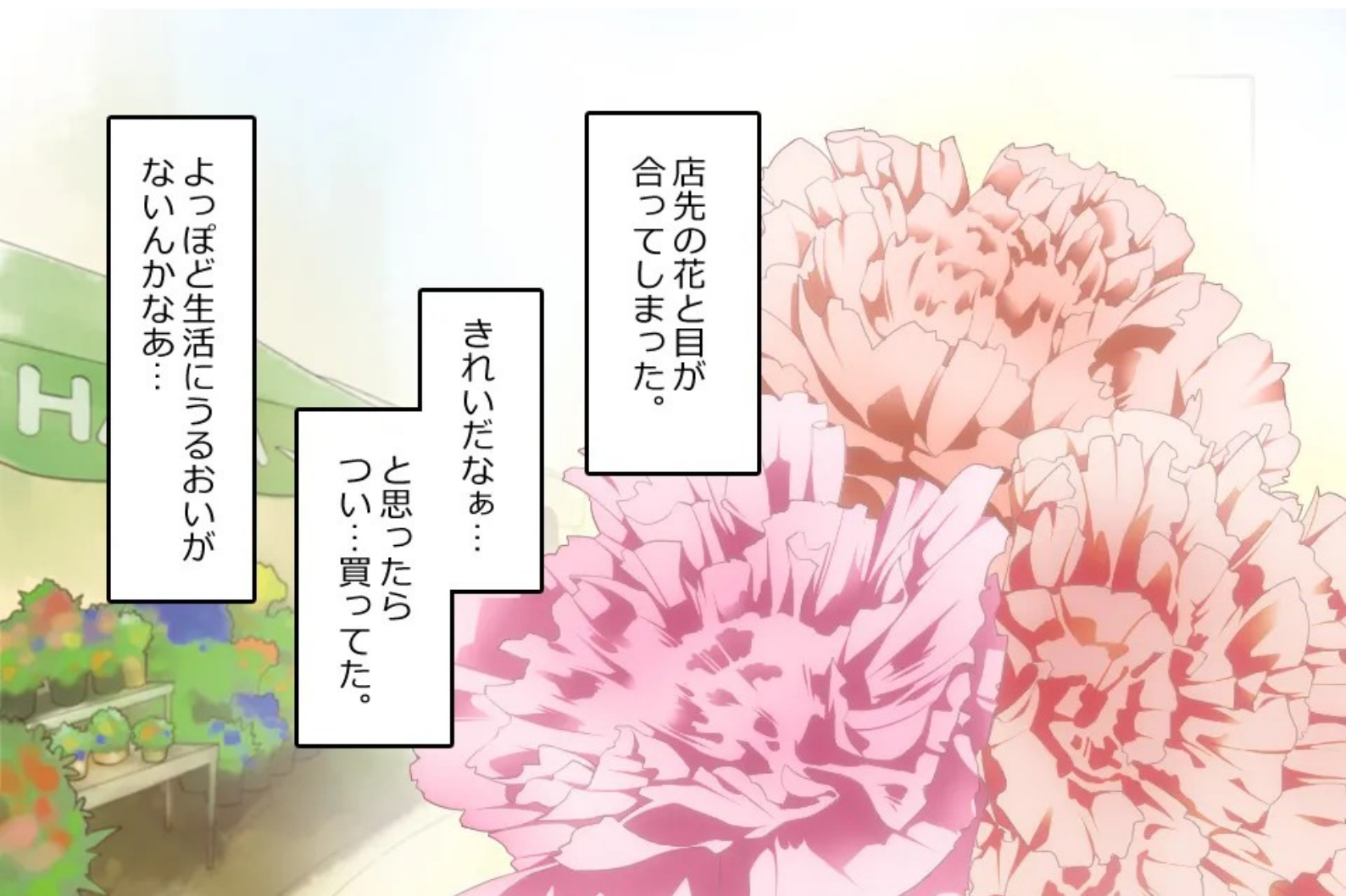


家に帰ると*
花の妖精さんが
いる、という話

風もまだ冷たい春先

花屋の前でふと
足を止めてしまった
会社帰り――





店先の花と目が
合ってしまった。

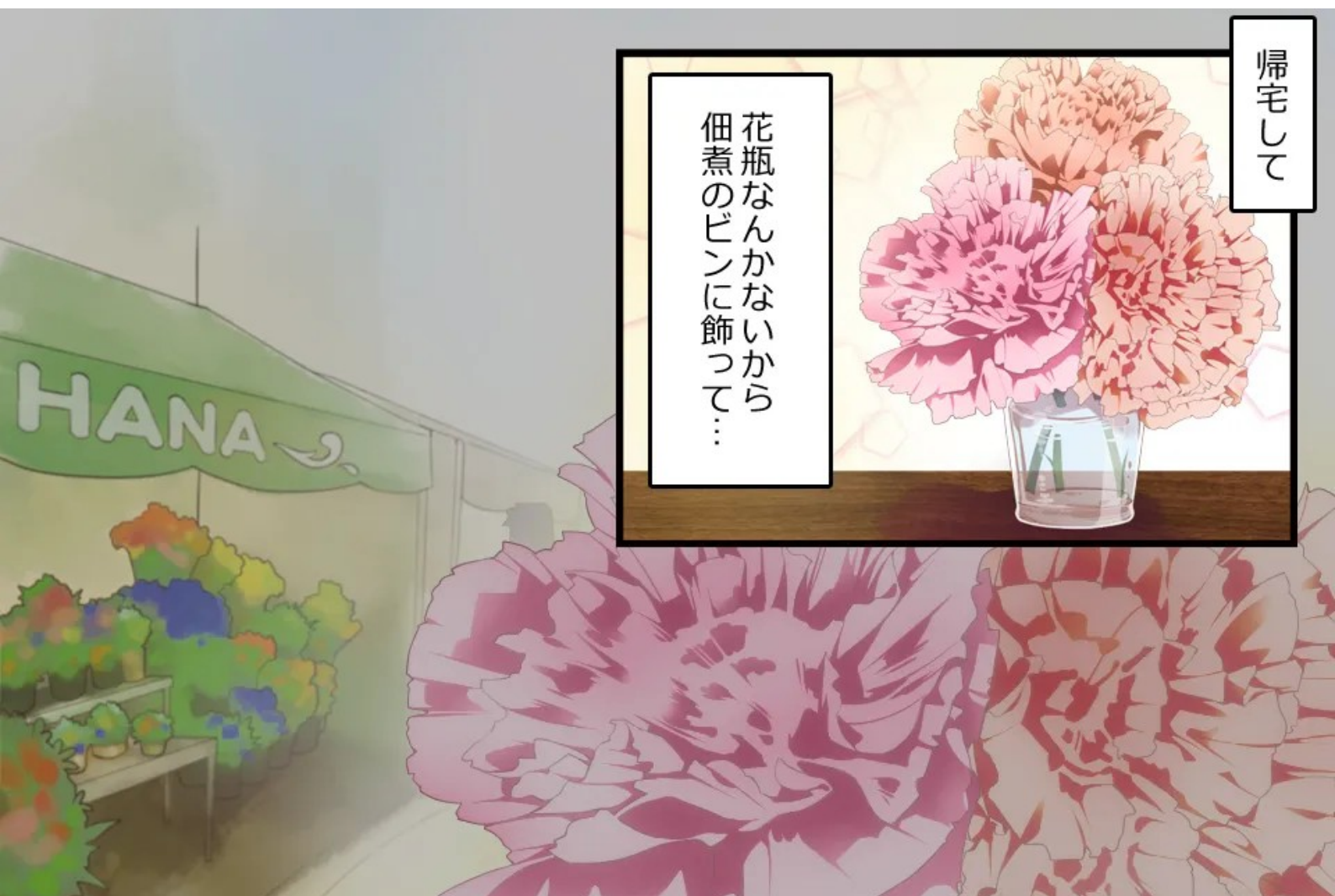
きれいだなあ…

と思ったら
つい…買ってた。

よつぽど生活にうるおいが
ないんかなあ…

帰宅して

花瓶なんかないから
佃煮のビンに飾って…



風呂に入って
素っ裸でぺたぺた
出てきたら……

……
うー！



部屋に
なんかいた。





妖精さんかな？

不審者かな？

誰だ？

変な服だし…

コタツの上に座って
ぼんやりしてる…



近づいていっても
反応、変わらない、な。

見えてる、かな？



見えて
ないのかな？



実体は、ある。

オレの幻覚では
ないんだな？



どう考えてみても
外部から浸入された
形跡はないし

これはもしかしたら
日ごろ一生懸命働いてる俺への
天からのおくりものなのか？

なんてね。

ぶにぶにしても
嫌がらないのをいいことに
片乳を出してみた。

いくら俺でも
普段、初対面の人に
こんなことはしないよ。

でも、こいつ
不審者だからな。

身体検査だ。

と、いうことだ。





さて

乳首でも
つまもうかな

おっぱい
ぺたんこだな





おお

ちよつとでも
反応があると
おもしろいな

ぺたんこおっぱいだけど
寄せて上げれば

ちよっとは

かるうじて

おっぱい、っぽい？

もむ

もむ



おっぱい
もむもむされて

声は出てないけど
息が上がって
きてるな。

もむ

もむ

もむ





しかし
ちっばいがあるとはいえ
俺は気づいてしまっている。

乳を揉まれて
もじもじしはじめたけど

下の方へ視線を落とすと

…と



完全に男！

完全にオス！



さすがに俺も
考える…

いくら生活にも
性生活にも潤いが無いとはいえ

オスに手を出すのは
どうなんだ？





三秒思考し…

結論

ま、いいか。

可愛いし
押し倒しちゃおうと。

えいや…っと

ごうん

ひっくり返してみても
嫌がってる気配は
ない…っぽい。

お





よく見りゃ、ちゃんと
挿入用の穴もあるし

まずはちよいと
指でも挿れて
みようか。



丁寧
に
ほぐしながら
舐めた指を
突っこんでみた。

ひゃあ

お、

意外と
入っちゃう
もんだな。

め

ふっ



入り口
コスコス
ちゃおう。



ほぐれて
きたかなあ。

声も
甘ったるく
なあってきた、
ぞと。

A pregnant anime girl with long black hair and green eyes lies on a dark wooden floor. She wears a pink, ruffled, strapless dress with a large bow at the waist and a matching pink choker with green beads. Her expression is one of discomfort or pain, with a slight frown and a small sweat drop on her forehead. A large, pale hand is shown stepping on her bare pregnant belly. The foot is wearing a white, high-heeled shoe with a thick sole. The background is a dark brown wooden floor.

もうそろそろ
……いいかな？



俺の息子ちゃんも
いい感じに元気に
なってきたし。

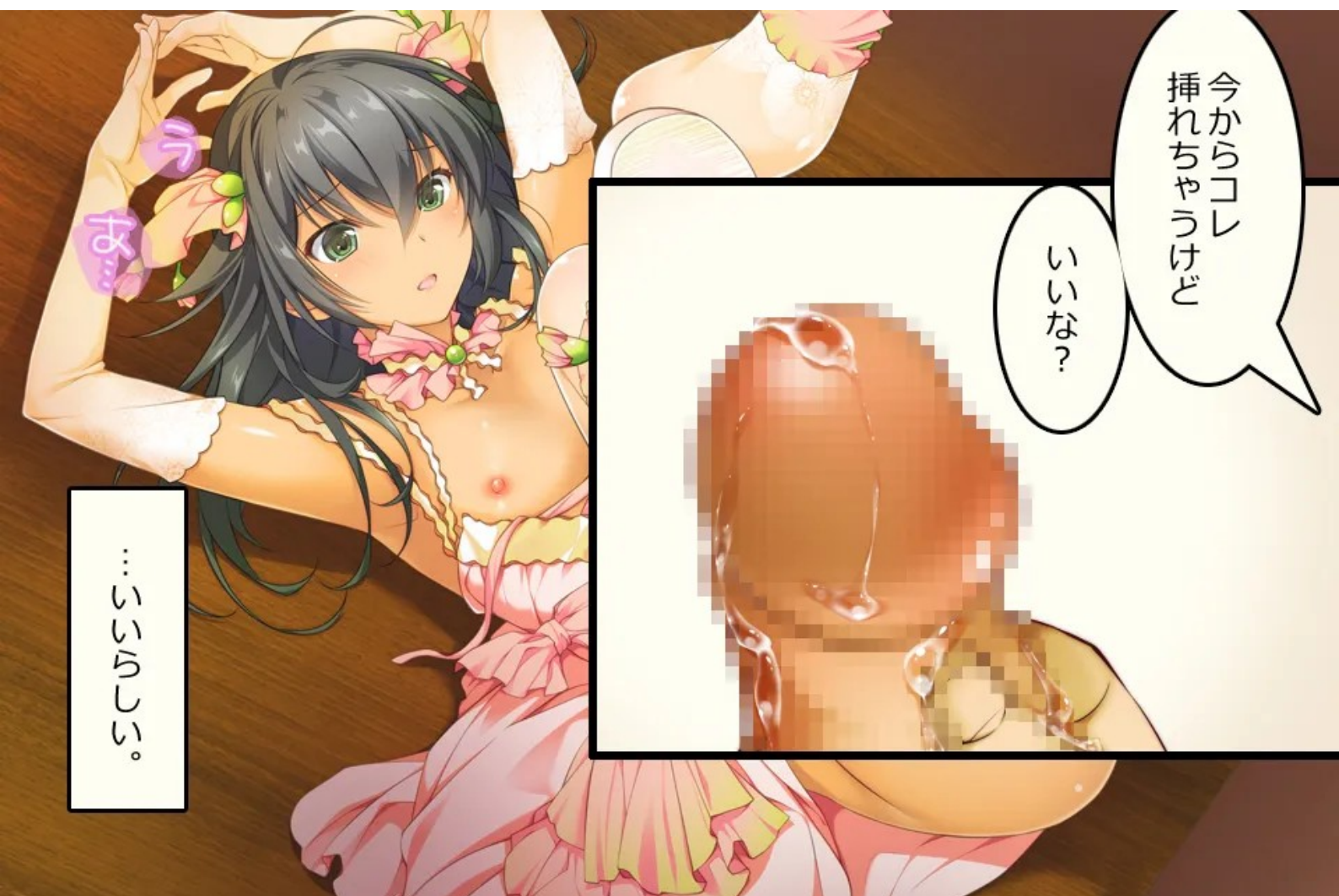
今まで何しても
嫌がったりしてない
なあ。

なし崩しに
ここまで来たとはいえ
一応、同意は得ておく
べきかな？

今からコレ
挿れちゃうけど

いいな？

…ささなっ。











入り口、きつつ...



パンツ、邪魔……

もっと足開かせなきゃ
奥まで、入らないや。





パンツを脱がせてみると
こいつだつて、
むっちゃ勃ってる。

ガマン汁
だらだらじゃないか。



じゃ、俺だつて
がんばらせて
いただきますよ。

ズ
ズ
ッ





引いて...

アッアッ





気がつくといつ
あえぎながら
自分のモノを
無我夢中って感じに
しごいてやがる。

なんだ。
遠慮なんて最初から
不要だったんじゃないかよ。



それにしても

オスとはいえ
他人の温もり
久しぶり…

キツくて
全部挿入でき
ないけど

それでも

めっちゃ
気持ちえええ



もう...

たまらん...





もう無理…

これ以上は…

俺のはもう
最大限に怒張し
開放を求めているッ！



俺はコタツの上にあがり
やつの股を押し広げた。

体重をかけて
奥まで捻じ込んでいく。



なんとか根元まで
押し込んだ。

きつついけど
内側をえぐるように
ゆさぶる。

もう少し…

もう少しだけ耐えろ
俺…



コタツの天板が
軋んでズれるくらい

はげしく

はげしく！

はげしく

はげしく

はげしく

はげしく



もうダメだ…

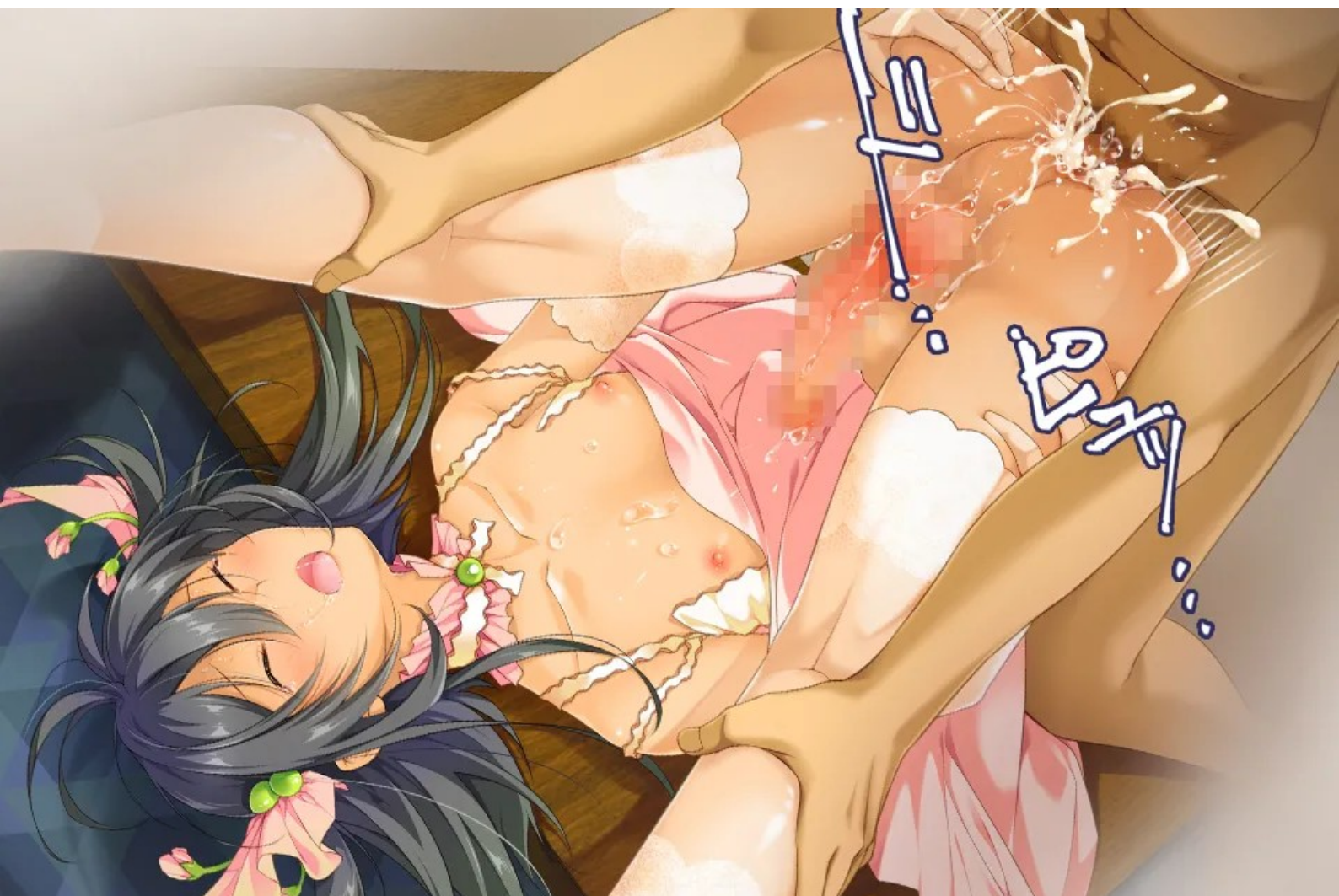
イク…

中で

中で出す…!

ラストスパートで
腰を叩きつける

もう…

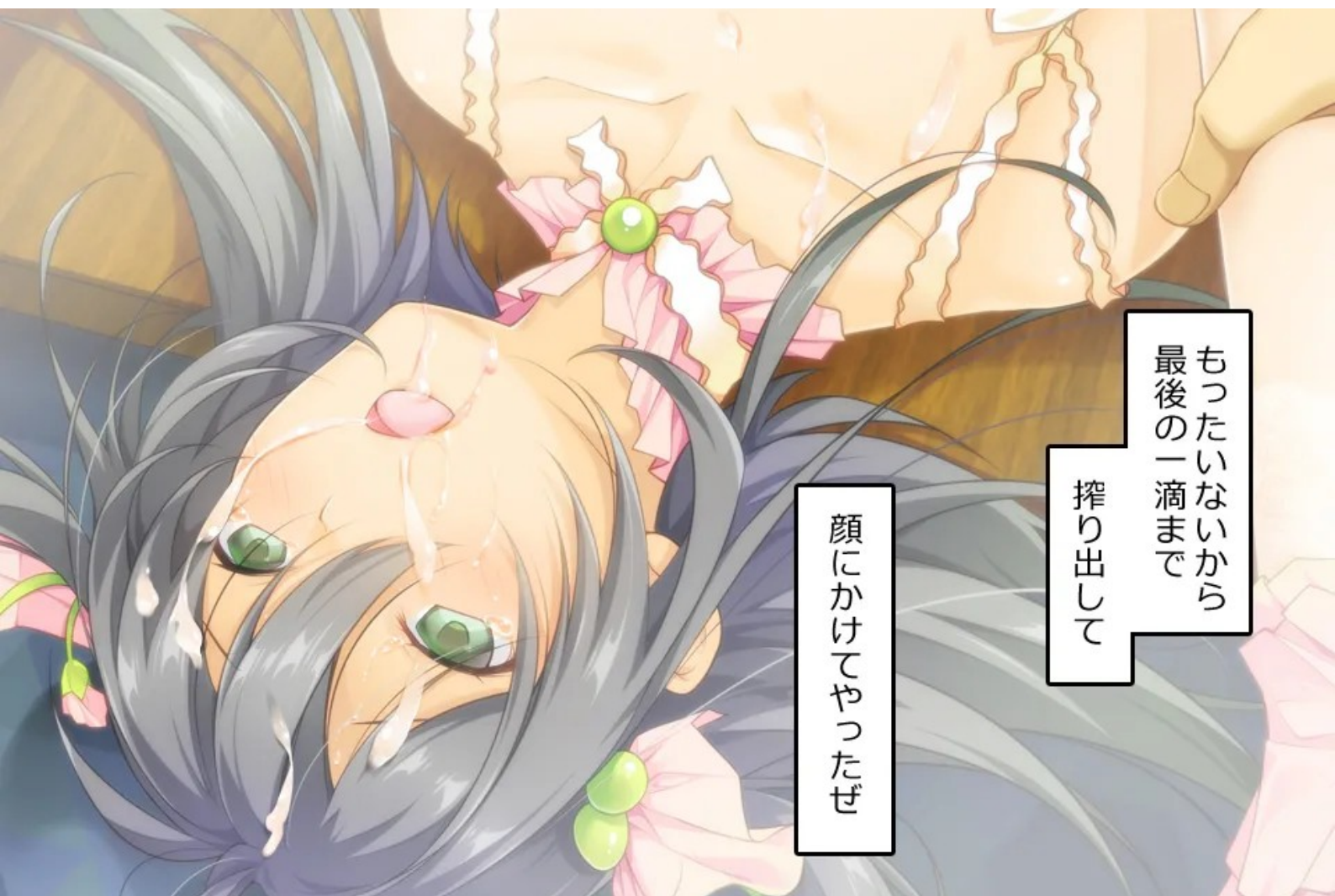




俺のすぐあとに

こいつも
いきやがった

ピュ



もったいないから
最後の一滴まで

搾り出して

顔にかけてやったぜ



ふう…

風呂上りだというのに
いい汗をかいてしまった。

で…今更
どうしよう…

この状況

すっかり関係を
持ってしまったが
訴えられたらヤバイぞ…

なんてことを
考えながら…

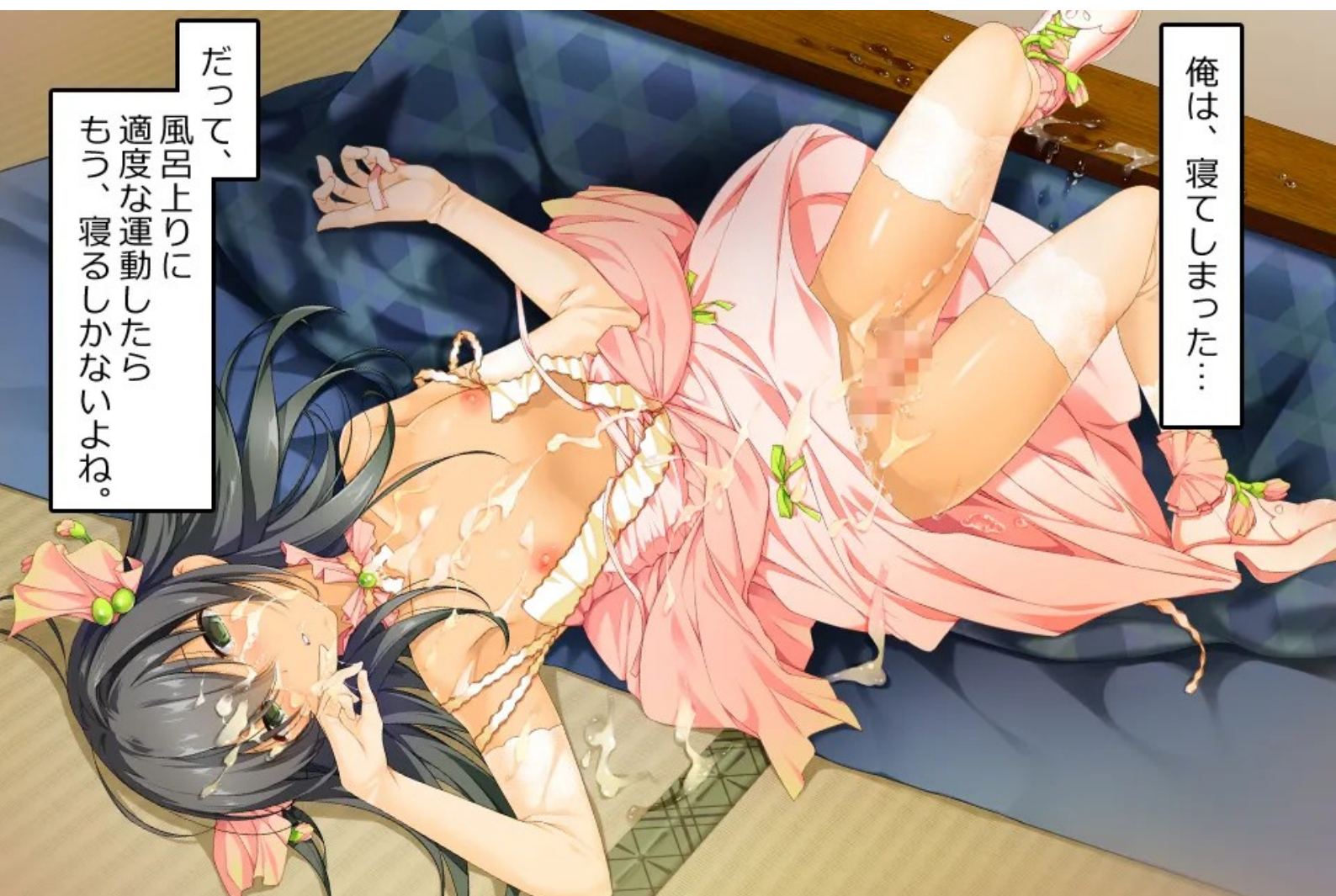
考えるの
めんどくさくなって…



俺は、寝てしまった…

だって、

風呂上りに
適度な運動したら
もう、寝るしかないよね。



翌日、目覚めたら
あの変なヤツは
いなくなっていた。



花はしおれていた。

おしまい